

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	スポーツ健康科学特 論	<p>本講義は、広範なスポーツ・健康分野の専門的知識を修得することを目的としている。授業は1年前期に担当し、必修科目として位置づける。各専門分野の教員(運動生理学, スポーツ栄養学, 健康科学, スポーツコーチング, 公衆衛生学, スポーツ医科学, 健康教育, 学校保健, スポーツ哲学, スポーツバイオメカニクス)がオムニバス形式による授業を展開する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(奥本正/2回) 本講義の授業方針, 授業内容, 評価方法に関するガイダンスを実施したのち, 運動生理学の歴史, 取り扱う内容, 考え方の視点, 最近の研究手法について理解を深める。 また, 運動と食事のタイミングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について, その根拠となる論文を講読を通して理解を深める。また, それらをもとに自らの食生活についてディスカッションを行う。</p> <p>(高瀬幸一/2回) 人々の健康増進とその維持に役立てることを目指し, 健康管理とその指導法について理解を深める。また, 健康科学をイノベーションにつなげるために, 具体的に何を軸足にしていき, どのような経済価値を産み出すことなどについても理解を深める。 ヘルスプロモーションの理念について概説し, 健康な公共政策づくり, 健康を支援する環境づくり, 地域活動の強化等についての考え方について理解を深める。</p> <p>(小川寿美子/1回) 変わりゆく世界と21世紀の地域健康づくりについて, 19世紀から21世への200年間の変化と, その世界的な広がり, その時空間における人権としての健康の意味の変遷について考えることを目的とする。 また, 戦後日本で展開した地域保健の諸事例について学修し, それらの歴史を原点に, 日本の保健医療の将来に資する着想や示唆を考える羅針盤を模索することを目的とする。</p> <p>(吉武裕/1回) ヒトの進化の過程において獲得された身体機能(身体活動と食事の相互関連)の視点から, 身体活動(運動)による肥満, 2型糖尿病, 高血圧などの生活習慣病の発症及び予防について考え, 身体活動(運動)と生活習慣病の関連性の理解を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	スポーツ健康科学特 論	<p>(樋口京一/2回) 高齢者に観察される生理的、物理的な身体機能の減退や、未病や疾患をヒトや動物の「加齢・老化」という生命現象の視点から捉えることを目的とする。そのために最新の「加齢・老化」の生物学的、医学系メカニズムについて理解を深め、運動を中心とした老化遅延処方の実施についての基礎知識を構築する。</p> <p>(金城昇/1回) 健康行動と健康教育に関する理論やモデルについて概観するとともに、特に、Precede-proceedモデル(PPModel)を活用し、現代の健康課題を分析することにより理解を深める。</p> <p>(高倉実/1回) 人々の健康保持・増進や疾病予防に役立てることを目指して、運動疫学や社会疫学あるいはヘルス・プロモーションの観点から、人々の健康関連事象とそれらを取り巻くマイクロレベル要因、メゾレベル要因、マクロレベル要因等の社会生態学的影響について理解を深める。</p> <p>(大峰光博/2回) スポーツ哲学領域で論じられる対象と方法についての理解を深める。特に、スポーツ倫理に関する学問的成果を中心に講義を展開する。現在進行形で生じているスポーツの問題についても、ディスカッションを行う。</p> <p>(玉城将/1回) スポーツバイオメカニクスの研究によって明らかになったヒトの基本動作に関する知見について学習し、力学的な観点から身体運動を分析する基礎を身に付ける。</p> <p>(神谷義人/1回) 健康とスポーツの関わりを通して、生き生きとした人生を送るためのライフステージに応じた生涯スポーツの推進について理解を深める。</p> <p>(三輪一義/1回) スポーツコーチングの原則及びコーチング理論と方法論、トレーニングのあり方について理解を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	スポーツ健康科学研究方法論	<p>本講義では、指導教員の指導のもとで公正で責任ある研究を実践することができるように研究倫理観を養う。また、スポーツ健康科学分野の代表的な研究手法(文献研究、調査研究、実験研究、実践研究)を理解し、実験や調査で得られたデータの適切な分析方法を修得する。この授業は研究を実施するために必要な能力を習得し研究計画書を作成するため、必修科目とする。本講義はオムニバス形式で実施し、講義と演習形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(奥本正/6回) 第1回～第3回は、研究倫理に関する内容で、大学院生に必要な研究倫理教育を実施する。教科書や具体的な不正事例を用いながら理解を深める。 第6回～第7回は、実験研究を実施するに当たり、実験系の立て方、予備実験の行い方、データ取得方法について理解を深め、実験研究の研究計画の立案を行う。 第11回は、自らの修士論文の研究計画書を作成する際の注意点を概説する。</p> <p>(大峰光博/2回) 第4回～第5回は、各種データベースを参照し、文献の効果的な収集方法について理解する。また、学会誌に掲載された論文を参考に、文献研究の方法を理解する。</p> <p>(濱本想子/1回) 第10回は、「実践」を「研究」することの意義や理論、方法を学び、「実践」や「研究者(ら)」の文脈を大切にしながらも新たな知識を創造し社会に共有する上で重要なポイントについて理解を深める。</p> <p>(本村純/6回) 第8回～第9回は、文献調査やインタビュー調査、アンケート調査など調査研究に用いるリサーチ手法で概説する。最新の研究論文を紹介しながら、収集したデータの活用方法について理解を深める。 第12回～第15回は、社会現象、自然現象、健康現象に対する統計学的な捉え方及び考えを学び、保健分野における統計学の正しい利用及び解釈を学習する。また、研究への活用を目指し、調査データ等の統計処理(記述統計及び推測統計)を学び、データの要約及び分析の方法を修得する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	生涯スポーツ特論	<p>本講義では、ライフステージにおいて幼少年期、青年期、中年期及び高齢期の各々のライフスタイルに適した運動・スポーツの健康・体力の保持増進に果たす役割について学ぶ。</p> <p>1) 本授業は講義形式で行う。 2) 授業の資料は主に学術雑誌を用いる。 3) 授業に用いる資料はユニバーサルパスポートにアップロードする。 4) 必要に応じて学術論文を配布し、論文の講読・討議を行う。 5) 毎週、授業の最後に授業内容について討議をする。</p>	
	健康科学特論	<p>本講義では、健康増進につながる知見を基礎科学的見地から解説し、幼少年期から高齢期にかけての身体的機能の特性についてとらえ、健康との関連について理解を深めていく。また、生活習慣病（メタボリックシンドローム、高血圧、高血糖、脂質異常など）や高齢期における身体機能の低下について最新の知見を踏まえながら理解を深め、健康増進に関する理論を深める。さらに、地域社会における健康指導者としての役割について考えるとともに、健康分野のイノベーションについても理解を深めることを目的とする。</p>	
	体力科学特論	<p>本講義では、体力は人間の生存と活動の基礎となる身体的能力であることを理解する。このことを踏まえ、一般人と運動鍛錬者の体力の比較、運動トレーニング及び身体不活動の体力への影響とそれをもたらすメカニズム、発育・発達と体力、体力の加齢変化と身体活動、健康の維持・増進または高齢者の身体的自立に必要な体力（全身持久力や筋力）水準について学習する。さらに、障がい者における身体活動状況や体力の現状を理解し、障がい者のための体力保持・向上のための運動トレーニングについても学習する。なお、本講義は講義形式で実施する。</p>	
	疫学特論	<p>本講義では、疫学の基本的な用語や理論を理解するとともに、疫学の分析方法を修得することを目的とする。また、健康指標や曝露要因の意味や意義を理解し、それらを構成する健康関連情報の収集、データ処理、統計解析方法等を身につける。授業計画として、運動疫学や社会疫学をはじめとした疫学研究を事例として取り上げ、人間集団の中で出現する健康に関連する状況や事象の頻度と分布及びそれらに影響を与える規定要因を包括的に取り扱い、人々の健康保持・増進や疾病予防のあり方について探求する。</p>	
	英語講読	<p>本講義では、英文で書かれたスポーツや健康分野の学術論文や書籍を講読する力を養うことを目的とする。テキストを中心に、海外のインターネット・ニュースなどについて文法や語句の解説も加えてスポーツや健康分野に関する基礎読解力を高め、学術的論文や書籍を英語で理解する能力や知識を身に付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	運動生理学特論	本講義では、運動を外部刺激の一つと考え、その運動によって生体がどのように変化するのか、また運動の継続（トレーニング）によってどのような適応が生じるのかについて理解する。特に、筋系、呼吸器系、循環器系、神経系、エネルギー代謝、体温調節系の変化や適応、またそれらの相互関係について理解を深める。また、これらを統合して、様々な対象に対して、科学的根拠に基づいた至適なトレーニング方法を探究する。さらに、運動生理学的研究アプローチの修得を目標とする。なお、本講義は主に講義形式で実施するが、グループ発表などのアクティブラーニング形式の講義も取り入れる。	
	バイオメカニクス特論	本講義では、動きを力学的に定量化することの意義と方法について実践的を通して学ぶ。スポーツ選手の卓越した技術を説明する力学的メカニズム、運動傷害を引き起こす動作要因など、身体運動を力学的に分析することで初めて明らかになる有用な事実は多い。バイオメカニクスは、そのような動きの力学的な分析を扱う学問である。本授業では演習を通してバイオメカニクス的な分析方法の修得を目指すと同時に、運動指導におけるバイオメカニクスの意義を理解する。	
	スポーツ心理学特論	本講義では、体育、競技スポーツ、健康スポーツ・運動に取り組む、学習者、選手、市民、あるいは指導者等にとって、その取り組みの成果をより高いものにするための心理学的課題を取り上げて、関連する理論と最新の知見をレビューすることによって、スポーツ心理学に対する理解を深めていく。授業では、1時間ごとに話題提供を行い、資料を読み解き、全体のディスカッションを通してスポーツに関わる人々の心理学的課題を考察していく。	
	健康教育特論	本講義では、健康格差社会が叫ばれる中、その処方に必要なか、学校、職場・職域、地域における健康づくりや健康支援に関して、ヘルスプロモーションの診断・企画・実践・評価ツールとしてのPrecede-proceedモデル(PPModel)を基礎に、ライフスキル教育、行動科学や行動経済学等の理論やモデルを活用した体系的・構造的な健康教育について探求する。その探求を通して学校、職場・職域、地域におけるリーダーとしての健康管理思考力・生活習慣改善力・健康情報リテラシー・ヘルスコミュニケーション・アサーションで構成されるヘルスリテラシーの形成を図ることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	公衆衛生学特論	本講義では、健康を守り、保健医療や環境や社会とのより良い関係を築き、さらにそれらをよりよく変えていくうえで必要になってくる知識やスキルと、生物医学的な見方・考え方に偏らない多様な見識とクリティカルな思考を修得することを目的とする。また受講者が自らの生き方を創出する主体であるのみならず、社会参加により平和、健康、福祉、持続的地球環境を形成するといった、世界を変えうる主体という認識を養うことを目標とする。	
	地域ヘルスプロモーション特論 I	本講義では、ヘルスプロモーションの起こりと歴史的背景、健康観についての歴史の変遷、健康政策の現状を講じ、ヘルスプロモーションについて理解した健康政策立案への基本的能力を修得する。また、健康づくりに関する様々な理論的観点から生活習慣病予防の具体的な知見や方法についても探究するとともに実際の現場におけるヘルスプロモーションについて学習していく。さらに、100歳高齢社会を目指す上においてサクセスフルエイジングを考え、ヘルスプロモーションの理論と事例について学ぶとともに、百寿社会の展望について考えていくことを目的とする。	
	スポーツ健康栄養学特論	本講義では、何をどれだけ摂取するだけでなく、いつ・何をどれかで摂取するかという時間栄養学の概念を用いて健康のための食事やスポーツパフォーマンス向上のための食事法について理解を深める。さらに、これらの食事法について、根拠になる論文を講読しながら授業を展開し、論理的・批判的思考力を養うことを目的とする。さらに、この分野で測定手法を理解した上で、それらを活用しながら適切な食事法や改善法を指導できる能力を修得する。なお、本講義は主に講義形式で実施するが、グループ発表などのアクティブラーニング形式の講義も取り入れる。  (オムニバス方式/全15回) (1 奥本正/6回) 何をどれだけだけでなく、いつ摂取するのかという時間栄養学の概念も用いて、スポーツパフォーマンス向上のための食事方法を原著論文を参照しながら講義、議論をすすめる。  (20 大西竜子/9回) 健康の三原則の一角を担う食と栄養の視点から健康づくりにアプローチするため、高度の専門知識を修得するとともに各自の研究テーマに役立つことを目標とし、講義、議論を進める。	オムニバス方式
	コーチング特論	本講義では、種目特性に応じたコーチングの原則及びコーチング理論と方法論、トレーニングのあり方について理解する。ジュニアから高齢者まで競技選手はもちろん、健康づくりやパフォーマンス向上など対象者に応じたトレーニング指導とコーチングについて学ぶ。テーマを設定し、テーマに関する文献を読み、効果的にトレーニング・コーチングを行うための問題解決法や評価法を取り上げて検討を加えるとともに、地域社会や部活動での実践事例を踏まえながらディスカッションを展開する。	

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	スポーツマネジメント特論	<p>スポーツマネジメントの基礎理論を理解した上で具体的な、現代的なスポーツマネジメント研究の課題や具体的なスポーツ組織におけるマーケティングやリーダーシップ行動など、マネジメントのあり方について議論する。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織と人事マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を講義する。</p>	
	スポーツ医科学特論	<p>本講義では、スポーツ活動と医科学は様々な面で連携し、運動能力向上のみならず、超高齢化や地球温暖化などが進行する社会の持続可能な発展・維持に貢献する役割を持つことへの理解を深めることを目的とする。スポーツや運動の健康増進や疾患の予防効果は、広く認識されており、社会からの期待も大きい。発展が著しい基礎医科学と解析技術に注目しながら、運動が代謝、ミオカイン、ミトコンドリア、炎症抑制、ストレス耐性などへ及ぼす効果について理解を深める。運動の作用メカニズムの理解から、運動の健康増進や疾患予防への適切な応用へと展開する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)全15回) (6 樋口京一/10回)</p> <p>スポーツや運動の健康増進や疾患の予防効果は、広く認識されており、社会からの期待も大きい。発展が著しい基礎医科学と解析技術に注目しながら、筋肉の構造や機能を学び、運動の代謝、ミオカイン、ミトコンドリア、炎症抑制、ストレス耐性などへ及ぼす効果について理解を深める。スポーツ・運動の健康増進効果のメカニズムの理解から、疾患予防への適切な応用へと展開する。</p> <p>(6 樋口京一, 23 上原史成/1回)(共同) スポーツ医学における基礎知識を学び、どのような怪我や病気がスポーツ選手に生じるかを理解し、どのように「予防」につなげていくかについて、スポーツ医学(整形外科)の医師(上原)から学ぶ。さらに樋口がスポーツ医療の将来について展開する。</p> <p>(6 樋口京一, 21 島田裕之/2回)(共同) 重大な加齢疾患である認知症の予防を目指した運動処方 of 専門家(島田)から、実施方法、効果、理論、問題点について学ぶ。さらに樋口が問題提起を行い、将来の実践について考える。</p> <p>(6 樋口京一, 22 増木静江/2回)(共同) 高齢者の健康増進に効果を発揮しているインターバル速歩の専門家(増木)から、歴史、方法、成果、理論、問題点について学び、速歩トレーニングの実施方法についての指導を受ける。さらに樋口が将来の高齢者の健康増進を目指した運動処方について展開する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	スポーツ文化特論	<p>2011年6月にスポーツ基本法が公布され、「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」と明記された。スポーツに対する社会的な期待は大きい一方で、2018年にはスポーツ界の不祥事がマスメディアにおいて大きく取り上げられた。本授業ではスポーツ文化の功罪について、哲学と歴史の観点から検討する。スポーツ文化論の知見を提示しつつ、現在進行形で生じているスポーツの諸問題についてディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健体育科教育特論 I	本講義では、体育科教育学、保健科教育学、教師教育学に関連する国内外の重要文献を取り上げ、保健体育科のカリキュラム論、目標・内容論、方法論、さらには専門性開発論などについて討議し、これまでの教科の授業実践及び教育研究の成果や課題、今後のあり方について探求する。そして、自己のみならず、他者の専門性開発を支援できるように、教師教育の視座からその理論と方法について理解を深める。	
	健康心理学特論	本講義では、現代社会における健康問題に対する心理社会的関連要因をレビューする。さらに、メンタルヘルスの本質理解を深め、メンタルヘルスにかかる健康教育や、健康政策の策定にかかる心理学的役割、社会疫学的視点について学生とともに探求する。また、その展開を踏まえ、学生自らの心の健康に対する予防的対処スキルの修得を目指すとともに、学校、地域といった集団の心身の健康に対する予防的な実践活動の方法論について検討することを目的とする。	
	体力測定評価学特論	本講義では、スポーツと健康の観点から、ライフステージに応じた体力及び運動能力の測定法、評価法の基礎や解析方法について実践を通して修得し、運動指導や研究での活用方法を身に付けることを目的とする。実際に形態測定や体力測定を行い、得られた測定結果を正しく分析・評価することで、対象者の特性に適した活用方法について議論を展開する。本講義は、講義と演習形式で行う。	共同
専 門 科 目	老年学特論	本講義では、「老化」の科学的仕組みと老化に伴う病気や健康障害について学び、健康長寿や老化関連疾患の予防にどのように対処するかについて探求することを目的とする。本特論では、まず生命現象としての「老化」について、遺伝子・細胞・個体レベルで、概念や生物学的メカニズムについて理解を深める。続いて認知機能、運動機能、生活習慣病などの健康障害や老年病に関して理解を深める。最後に抗老化処方薬の現状についても紹介しながら、健康社会への貢献への議論を展開する。	
	学校保健特論	<p>本講義では、児童生徒、学生及び職員の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するために、学校保健を構成する保健管理と保健教育及び保健組織活動について理解を深め、特に児童生徒の心身の健康状態や発育発達の実態と、それらに影響を及ぼす様々な物理的環境要因や心理社会的要因の詳細、健康問題に対する学校健康教育・ヘルスプロモーションの役割等について探求することを目的とする。加えて、ヘルスプロモーションの理念に基づく学校保健活動を企画、調整、促進することのできる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 高倉実/12回) 学校保健管理及び学校保健教育について理解を深め、特に児童生徒の心身の健康状態や発育発達の実態と、それらに影響を及ぼす様々な物理的環境要因や心理社会的要因の詳細、健康問題に対する学校健康教育・ヘルスプロモーションの役割等について探求する。</p> <p>(12 神田奈津子/3回) 学校保健及び学校安全を計画的・組織的に行うために必要な学校保健計画及び学校安全計画や組織活動について理解を深め、計画の立案や実践、評価するための知識と技術を身に付けることを目標とする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	伝統武道特論	本講義では、武道に内在する日本文化の本質を理解し、スポーツと異なる日本伝統武道の特質の理解を深めていくと同時に、武道全般にわたる基礎知識を的確に把握する。その上、沖縄伝統空手の歴史的変遷について考察していく。	
	スポーツ倫理特論	本講義では、スポーツに顕在・潜在化する問題を倫理学の観点から考察することによって、保健体育科教員・スポーツ指導者に求められる規範を再考することを目指す。スポーツ哲学の領域において用いられる倫理学理論の解説を行い、スポーツの問題を論じていく。具体的には、スポーツにおけるトラッシュトークの問題、連帯責任の問題、大差で勝利することの是非、プレイオフの是非を扱う。	
	運動処方特論	本講義では、まず身体活動(運動トレーニング)、生活習慣病(非感染性疾患)及びこれらのリスクファクターとの関連性(または、量一反応関係)を学修する。次に、運動に対する心臓血管系と代謝系の応答を理解し、運動負荷試験法を修得する。これらの理解をもとに、安全性、身体状況、性及び年齢等を考慮した生活習慣病予防に有用な運動処方を作成できる能力を修得する。さらに運動処方に関連する学術論文を適時紹介し、生活習慣病予防のための運動処方の理解をさらに深める。なお、本講義は講義形式で実施する。	
専 門 科 目	地域ヘルスプロモーション特論Ⅱ	本演習では、健康的な公共政策づくり、健康を支援する環境づくり、及び地域活動の強化を柱とし、よりよい健康のための行動をとることができるような地域における政策について立案し、実際の現場における実践的な演習を通して健康支援人材における指導者としての個人技術の開発・実践力を養う。また、これまで疾病対策として実施されてきた事業(ヘルスサービス)を、健康づくりの場としてとらえ見直す必要性についても政策立案・実践の両面から学修することを目的とする。	
	保健体育科教育特論Ⅱ	<p>本講義では、授業研究のスタイルを取り入れ、学校現場や大学での保健体育授業及び模擬授業の観察や補助、実践、事前・事後検討などの実践的な演習を通して、昨今の教育課題に対応できる授業設計力・運営力・分析力・省察力を養う。そして、授業研究を通じた授業改善及び教師の専門性開発を支援できるリーダー教員としての資質能力も養う。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (9 大峰光博, 13 濱本想子/12回)(共同)</p> <p>昨今の教育課題に対応できる力と他者の専門性開発を支援できるリーダー教員としての資質能力の養成をねらい、先行研究や実践事例をもとに保健体育科教育や教師教育について史的・哲学的な視点からの深い理解を促し、教師及び教師教育者の専門性開発における理論的・実践的な学習を通してその理解及び実践力を高める。</p> <p>(9 大峰光博, 11 小賦肇, 13 濱本想子/3回)(共同)</p> <p>教師の専門性開発の手立ての1つである授業研究を模擬的に行い、その行い方や成果、課題について議論する。学生は生徒役と教師役、教員は指導助言者役(教育的視点、哲学的視点、競技専門的視点)を担い、多角的・批判的な視点から授業を考え、実践し、振り返ることができる力を養う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科目	特別研究 I	<p>本講義では、スポーツ・健康分野に焦点を当て、研究テーマに関連する論文の講読を通して、専門分野の理解を深める。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解するとともに、研究に必要な知識・技能を身につけ、研究計画を立案する。</p> <p>(1 奥本正) 運動生理学、スポーツ栄養学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。文献講読を通し、研究仮説の設定を行い、研究テーマを決定する。さらに、問題解決のための実験手法の習得も指導する。最終的には修士論文作成のための研究計画書の作成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(2 高瀬幸一) 健康増進とその維持のための理論や方法論について、食生活や身体運動、地域における健康支援などの視点から理論・手法を探究するとともに文献講読と議論を通してながら専門分野の理解を深め、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(3 小川寿美子) 健康の社会格差について、特にその社会的要因であるSocial Capital, Well Being, Gender, Work life balance, Vulnerability, Disparities, Diasporasなどに焦点をあて、科学的根拠に基づく探究姿勢を養いつつ、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(4 吉武裕) 高齢者の身体活動と体力の加齢変化、並びに高齢者の身体的自立に必要な身体活動と体力水準に関する文献講読と議論を通し、専門分野の理解を深める。これらを踏まえて研究テーマを決定し、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(5 樋口京一) 高齢者や若者の健康維持・増進に対するスポーツ・運動の効果に関する研究を進めると同時に、文献講読と議論を通して研究結果の専門知識を深め、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(6 金城昇) 健康行動と健康教育に関する国内外における理論・研究・実践に関する文献の収集を進めるとともに、文献講読と議論を通して、研究仮説の設定と研究テーマを決定し、修士論文の作成のための研究計画書の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(7 高倉実) 自らの研究テーマを観察研究や介入研究などの疫学的研究方法を用いて取り組もうとしている受講者が、主に、関連する文献講読やデスクッションを通して、研究課題や研究方法についての発想や手がかりが得られることを目的とする。そして、研究計画の立案や、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(8 大峰光博) スポーツ哲学領域での代表的な文献を講読することによって、スポーツ哲学の対象と方法についての理解を深める。これらの作業を通して研究テーマを設定し、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(9 玉城将) スポーツバイオメカニクス、スポーツのデータ分析に関する文献講読を通じて研究動向及び専門知識について理解を深めた上で、研究テーマを設定する。さらに、スポーツバイオメカニクス及びデータ分析の手法の修得も目指す。最終的には修士論文作成のための研究計画書の作成に向けた研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻) M

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究Ⅱ	<p>本講義では、スポーツ・健康分野に焦点を当て、研究指導を行い各テーマに基づいた論文指導を行う。自らの研究テーマに焦点を絞り、その研究の状況を適宜報告しながら、分析手法、結果の解釈、結論などの修士論文と論文発表会の指導を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(1 奥本正) 専門分野(運動生理学, スポーツ栄養学)に関する, 文献講読, 実験, データ整理, 統計分析, 考察を通して, 論理的に結論を導き出し, 修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(2 高瀬幸一) 健康増進とその維持のための理論や方法論について, 食生活や身体運動, 地域における健康支援などヘルスプロモーションに関連する実験・調査を通して, 研究結果についての議論, 分析, 考察を行い修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(3 小川寿美子) 健康の社会格差について, 特にその社会的要因であるSocial Capital, Well Being, Gender, Work life balance, Vulnerability, Disparities, Diasporasなどに焦点をあて, 科学的根拠に基づく探究姿勢を養いつつ, 修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(4 吉武裕) 高齢者の体力及び身体活動の加齢変化並びに身体的自立と体力及び身体活動の関連についての研究を行い, 研究結果についての議論と文献講読により修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(5 樋口京一) 高齢者や若者の健康維持・増進に対するスポーツ・運動の効果に関する研究を進めると同時に, 文献講読と議論を通して研究結果の専門知識を深め, 修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(6 金城昇) 健康行動と健康教育に関する国内外における理論・研究・実践に関する文献の収集・選択・分析を基に, 研究テーマの設定と研究計画書を策定し, 研究を遂行する。その遂行過程における議論を通して修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(7 高倉実) 自らの研究テーマを観察研究や介入研究などの疫学的研究方法を用いて進めている受講者が, 関連する文献講読やディスカッションを継続して行うとともに, 研究課題に関する測定・調査の実施, データの収集・解析を通して, 研究結果の専門知識を深め, 修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(8 大峰光博) スポーツ哲学領域に限定されない哲学領域に関する文献講読を通して方法論を確定し, 思考実験を伴う考察を検討し, 修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(9 玉城将) 実験・調査の実施, 実験・調査によって得られたデータの統計的な分析, 分析結果に基づいた考察を通して, 自ら設定した問いに対する回答を導き出し, 修士論文を完成させる研究指導を行う。</p>	